

第27回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

1. 日 時 平成9年7月30日（水）
14：00～16：00
2. 場 所 委員会会議室
3. 議 題
 - (1) 前回議事要旨の確認
 - (2) Mars Pathfinderミッションについて
 - (3) 国の研究開発全般に共通する評価の実施方法の在り方についての大綱的指針
 - (4) 放送通信衛星3号-b（BS-3b）の姿勢異常について
 - (5) 第一次微小重力科学実験室（MSL-1R）の実施状況について
4. 資 料
 - 委27-1 第26回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）
 - 委27-2 Mars Pathfinderミッションについて
 - 委27-3-1 国の研究開発全般に共通する評価の実施方法の在り方についての大綱的指針（概要）
 - 委27-3-2 国の研究開発全般に共通する評価の実施方法の在り方についての大綱的指針に関する意見
 - 委27-4 放送通信衛星3号-b（BS-3b）の姿勢異常について
 - 委27-5 第一次微小重力科学実験室（MSL-1R）の実施状況について

関係省庁

通商産業省機械情報産業局次長	河野博文（代理）
運輸大臣官房技術総括審議官	栢原英郎（"）
郵政大臣官房技術総括審議官	麩昭男（"）

事務局

科学技術庁研究開発局長	青江茂
科学技術庁研究開発局宇宙政策課長	千葉貢他

6. 議事

(1) 前回議事要旨の確認について

第25回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）（資料委26-1）が確認された。

(2) 地球観測プラットフォーム技術衛星（ADEOS）の機能停止に係る原因究明等の審議状況について

宇宙開発委員会技術評価部会 井口部会長より、資料委26-2に基づき、同部会において行われている、地球観測プラットフォーム技術衛星（ADEOS）の機能停止に係る原因究明等の審議状況について報告がなされるとともに、今後、同部会としては、本件について、最低3回の慎重な審議を行う必要がある旨の発言があった。

これに関し、委員より、機能停止とテンションコントロール機構の異常との関係、世界のフレキシブル太陽電池パドルの構造の比較検討状況、異常を引き起こした最初のきっかけとして、想定されなかった熱や加重が関与した可能性等についての質問があった。また、井口部会長より、多様な専門分野にわたる技術評価部会構成員により、設計検討や試験では表面に現れずに想定できない問題点にまで目を配って審議を行いたいとの発言があり、それを受け、委員長代理より、結論を急がずに慎重に審議を進めてほしいとの発言があった。

これを受け、宇宙開発事業団内田理事長より、8月18日に打上げ予定で

あった通信放送技術衛星（COMETS）については、技術評価部会でのA
DEOSの事故を踏まえたCOMETSへの対策の要否に係る十分な調査審
議が終了するまで打上げを延期したい旨の発言があった。

これに関し、委員より、打上げ時期の検討状況について質問があった後、
打上げ延期が了承された。

(3) M-Vロケット1号機による第16号科学衛星（MUSES-B）の打上
げ結果の評価について

宇宙開発委員会技術評価部会 井口部会長及び科学技術庁研究開発局宇宙
政策課 野津安全評価企画官より、資料委26-3に基づき、M-Vロケット
1号機による第16号科学衛星（MUSES-B）の打上げ結果の評価に関
する技術評価部会の報告書案について説明があった。

これに関し、委員より、固体モータロール制御装置（SMRC）及び固体
モータサイドジェット（SMSJ）の燃焼内圧異常に関連して製造工程の変
更と確認試験の検討状況等についての質問があるとともに、今後、MUSE
S-Bによるデータが世界の科学者に使用されるかどうかの評価が重要であ
るとの発言があった。後、報告書は原案どおり了承された。

(4) 第6回技術予測調査（宇宙分野）の結果について

科学技術政策研究所第4調査研究グループ 桑原総括上席研究官より、資
料委26-4に基づき、1996年から2025年までに実現が可能な科学技
術分野について調査した「技術予測調査」のうち宇宙分野について説明があ
った。

これに関し、委員より、宇宙分野で調査対象となった課題の抽出方法、
「重要度指数」の定義、アンケートの調査対象者の範囲、宇宙分野の個々の
課題の点数の認識の仕方、「重要」の持つ意味、日本と外国との同種の調査
の比較、これまでの調査結果との比較及び課題の実現率等について質問があ
った。

(5) その他

内閣総理大臣より、宇宙開発事業団法第12条第3項に基づき、宇宙開発委員会に意見を求められた件について、差し支えない旨、内閣総理大臣に回答することとされた。

以上